

日本海藻協会ニュース

2008年6月15日

I. 協会事務局から

1. 会員親睦交流会

今年度の親睦交流会を8月1日(金)・2日(土)に三重県鳥羽市で開催します。会員各社とも複数の方々のご参加をお願いします。参加者の氏名を事務局までお知らせ下さい。スケジュール等は次の通りです。(詳細は追ってお知らせします。)

8月1日(金): 13:00 までに「鳥羽 海の博物館」(鳥羽市浦村町大吉 1731-68)前に集合。同博物館の企画展示「海藻と日本人」その他を見学。18:00からホテルで夕食・懇親会。

8月2日(土): 朝食後解散。希望者は鳥羽水族館・三重大学生物資源部の海藻関係研究室見学。

参加申込期限: 7月11日(金)

2. 総会開催のお知らせ

今年度の総会を10月10日(金)13:00から学士会館(東京、神田)で開催します。同日14:00から開催される「秋季藻類シンポジウム」と同じ会場です。会員各社のご出席をお願いします。なお、シンポジウムの話題並びに話題提供者についてご希望・ご推薦を事務局宛にお知らせ下さい。

3. 会費納入のお願い

2008年度の会費を未納の会員(6月10日現在9社)は至急納入下さい。

II. 海藻関連ニュース

1. 2007年度漁期の海苔生産

2007年度漁期(2007年10月~2008年4月)の養殖海苔生産は、共販量約86億枚、共販金額約768億円、平均単価8円90銭(5月22日現在)であった。一部地区を除き全般的に不振であり、特に瀬戸内地区における色落ち

の影響は深刻な状況をもたらした。

2. 最新テングサ情報

2007年度の全国のテングサ入札量(生産量)を(株)森田商店がまとめた(詳細は添付ファイル参照)。全国の生産量は924トンで、主なところは静岡県286トン、愛媛県122トン、三重県111トン、東京都105トン、和歌山県58トン、徳島県55トン、高知県18トン、長崎県9トンとなっている。特筆されるのは静岡県での増産が顕著であったことであるが、この数字は2007年に市場に出された数量であり、実際には前年に採取されたものも含まれている。特に西伊豆の仁科漁協と土肥漁協では前年からの繰越分は70トン以上と推定される。

3. ひじき市情報

第4回三重県産ひじき市が5月30日に開かれた。三重県のひじき市は毎年4回開かれるが、今年がこれが最終市である。北村物産(株)がまとめた詳細情報及び関連情報は添付ファイルを参照されたい。全て1等のみの数字であるが、数量では前年比で88.0%、価格では前年比259.2%であった。

4. 第7回日本応用藻類学研究会春季シンポジウム

第7回日本応用藻類学研究会春季シンポジウムが6月21日(土)10:00~17:00に東京海洋大学楽水会館(東京都港区港南4-5-7)で開催されます。午前是一般講演(口頭発表とポスター発表)、14:00~17:10には講演とパネルディスカッション「海藻を用いたバイオ燃料の生産」が予定されています。参加申込み等の詳細については下記にお問合せ下さい。

日本応用藻類学研究会 庶務幹事 桐原慎二

shinji_kirihara@pref.aomori.lg.jpまたはshinjikirihara@yahoo.co.jp

Tel 017-755-2155 Fax 017-755-2156

〒039-3381 青森県東津軽郡平内町茂浦月泊10

青森県水産総合研究センター 増養殖研究所磯根資源部

5. 第10回ジャパン・インターナショナル・シーフードショウ

(社)大日本水産会主催の第10回ジャパン・インターナショナル・シーフードショウ(10th Japan International Seafood & Technology)が7月23日(水)~25日(金)に東京国際展示場“ビッグサイト”で開催されます。

6. 第5回アジア太平洋藻類学フォーラム

第5回アジア太平洋藻類学フォーラム (Vth Asian Pacific Phycological Forum, Vth APPF) が2008年11月10-14日にニュージーランドのウェリントンで開かれます。会場はウェリントン駅に近接するウェリントン・ビクトリア大学のラザフォード・ハウス (Rutherford House, Pipitea Campus, Victoria University of Wellington, Bunny Street, Wellington) です。詳細は <http://www.appf2008.com> をご覧下さい。

プログラム概要

- 11月10日(月) 受付(1pm~)、歓迎レセプション(5pm~)
- 11月11日(火) 受付(8am~)、開会式(9am)、ミニシンポジウム、口頭発表、ポスター
- 11月12日(水) 全体講演、ミニシンポジウム、学生発表、口頭発表、バンケット
- 11月13日(木) 全体講演、ミニシンポジウム、学生発表、ポスター
- 11月14日(金) 全体講演、口頭発表、閉会式(1pm)

ミニシンポジウム予定：「藻類と気候変動ーインパクトと修復」「応用藻類学ー養殖と利用」「藻類系統学」「侵入藻類」「生物活性物質」「極地藻類」「淡水藻」「大型藻の生態」「シアノバクテリア」など

ワークショップ予定：「藻株培養保存」「東南アジアにおける海産藻類分類学のためのコンソーシアム」「ウシケノリ目のグループ集会」「藻類を活用したCO₂貯留に関するアジアネットワークの作業グループ集会」

参加登録

割引付早期参加登録の期限は**6月30日**です。発表要旨(Abstract)の受付期限も**6月30日**です。参加登録料は次の通りです。

フル参加 NZ\$ 425 (7月1日以後は NZ\$ 450)
(全学術集会に出席可、11, 12, 13日のランチ、歓迎レセプション、閉会式、コーヒーブレイクの経費を含む)

学生・退職者・無職 NZ\$ 220 (7月1日以後は NZ\$ 250)

1日登録 NZ\$ 200 (7月1日以後は NZ\$ 250)

11月12日に予定されているバンケット(フォーラム・ディナー)代は NZ\$ 100 (7月1日以後は NZ\$ 100) です。

上記料金は全てニュージーランドドル(NZ\$)で振込んでください(12.5%の税が含まれています)。4月22日現在NZ\$ 1.00 = ¥ 81.75。なお、appinquiries@niwa.co.nz に申し込んでおけば最新情報が送られてきます。

ホテルはフォーラム事務局 (Holliday Inn Wellington, Hotel Ibis, Central City Hotel を確保) を通すか、あるいは現地旅行案内を通して直接予約して

下さい。宿泊料金その他の詳細は <http://www.appf2008.com> をご覧下さい。

7. 企画展示「海藻と日本人」

海の博物館（三重県鳥羽市）が企画。2008年7月12日～9月23日。

問合先：〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉 1731-68 海の博物館

Tel 0599-32-6006(代) Fax 0599-32-5581 営業推進室長 平賀大蔵

8. 「大森 海苔のふるさと館」

場 所： 東京都大田区平和の森公園 2 番 2 号

開館時間： 午前 9 時～午後 5 時（6 月～8 月は午後 7 時まで）

休 館 日： 第 3 月曜日 年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

III. カレンダー

2008.6.21. 第 7 回日本応用藻類学研究会春季シンポジウム（東京海洋大学 楽水会館）[→No.2]

2008.6.21 - 27. 第 11 回国際応用藻類学会議（アイルランド・ガルウェイ）

2008.7.12. - 9.23. 企画展示「海藻と日本人」（鳥羽 海の博物館）[→No.1]

2008.7.23. - 25. 第 10 回ジャパン・インターナショナル・シーフードショウ（東京国際展示場 “ビッグサイト”）

2008.8.1. - 2. 日本海藻協会会員親睦交流会

2008.10.10. 日本海藻協会総会、秋季藻類シンポジウム（東京 学士会館）
[→No.1]

2008.11.10 - 14. 第 5 回アジア太平洋藻類学フォーラム（ニュージーランド・ウェリントン）

IV. 海藻 Q & A

Q3－海藻が多様な色彩を呈するのはなぜか？

A－ 海藻の色は藻体に含まれる光合成色素の種類と量によって決まります。

光合成色素には、緑色のクロロフィル a, b, c, d、黄～橙色のカロテノイド（カロテン、フコキサンチンなど）、フィコビルリン（紅色のフィコエリスリン、青色のフィコシアニン）などがあります。アオサやアオノリのような緑藻はクロロフィル a, b とカロテンを含むので緑色～黄緑色を、コンブやワカメのような褐藻はクロロフィル c とフコキサンチンを含む（クロロフィル c の緑色はフコキサンチンの色に隠されている）ので褐色～黄褐色を、トサカノリやテングサのような紅藻はクロロフィル a、カロテン、フィコエリスリンを含む（クロロフィル a の緑色はフィコエリ

